

# 医療法人三精会 こころの森病院

福井県福井市

設計・監理／共同建築設計事務所  
施工／田中建設



北東外観 分節しボリュームを抑えつつ、跳ね出した病室が印象的なファサード

## 設計主旨

福井市内の市街地に建つ精神科病院の移転新築プロジェクトである。建替えを機にこれまでの長期入院主体の医療から地域連携を強化した外来診療と急性期医療にも対応する医療へと転換を図ることになり、建築としてどのように応えていくかがテーマとなった。

### — L字型の敷地を活かした配置計画

新敷地は既存病院の道を挟んだ向かい側であり、移転とはいえ来院者にとっては、同じアクセスでたどり着くというわかりやすい立地である。敷地形状はL字型であり、敷地の形をそのまま型取るような形状で建物を配置した。

既存の玄関が面していた交差点に同じく新病院の主玄関を置き、広がりのあるピロティを介してアプローチできるようにした。特に冬季における雨や雪に配慮し、歩行者だけでなく、エントランス脇での安全な車の乗降も可能とした。

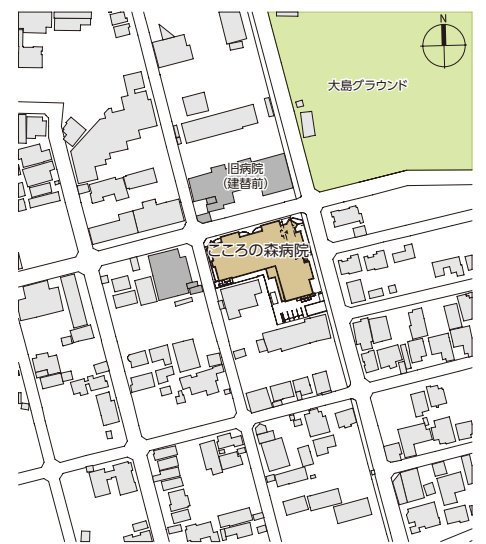
### — まちとつながるエントランス

まちと向き合うファサードは周辺の住宅になじむように、病棟階の壁面を明るい色合いの軽快なボリュームとし、分割された凸型の壁

面を傾け、軽くおじぎをしている形で来院者をやさしく迎える形態とした。

病院の顔であり、地域との接点でもあるエントランス廻りは、落ち着きと柔らかい印象をつくるため、木や和紙などの温かみのある素材でインテリアを構成している。待合は、ガラス面を用いて北向きの安定した自然光を取り入れ明るい空間としながらも、外部とは植栽やシェードでさりげなく視線を遮り、落ち着いた外来空間とした。

今後多方面に活用できるであろう竹垣を眺められる庭をもつ多目的ホールと併せて、新病院のイメージである「木漏れ日の差す場所」を空間的に実現した。



配置図 縮尺 1/4,000



雨雪でもアプローチしやすいピロティに面した主玄関



アイベクルに表示した病院名サイン\*



木のぬくもりが感じられる受付と外光が差す待合

### ー リハビリのための病棟

病棟は、L字型の平面の中央部にスタッフステーション (SS) を配置している。2つの方向に延びる病室群と共用部をスタッフコーナー (SC) とあわせて2つのカウンターから見守りができるようにした。ステーションからの距離が短くなりスタッフの移動負担を軽減している。

コンパクトな面積のなかでも特にリハビリや生活スペースを充実させ、病棟内の全員が集まる食堂以外にやや小さな談話コーナーを病棟廊下の一部を広げる形で設けている。複数ある共用部が病棟内でのリハビリやスタッフ・家族とのコミュニケーションに使えるスペースとなることを期待したい。

### ー 病室群の「ユニットプラン」

病室廻りは、いくつかの病室と水廻りや談話コーナーをひとまとまりにした「ユニットプラン」として構成している。患者にとって洗面やトイレという毎日の基本になる生活行為に必要な諸室を病室の近くに配置し、引きこもりがち患者が少しずつコミュニケーションを取り戻すきっかけになることを期待するもの

である。また、水廻りは配管や水栓器具などがありトラブルになりやすい場所でもあることから、ステーションからさりげなく見守りができることも重視した。

### ー 患者の個性を尊重した病室廻り

病室は、主に4床室に特徴を持たせている。各ベッドのエリアをカーテンの代わりに間仕切りで仕切った「個室型4床室」と隣のベッドとの境に袖壁を出し、各ベッドが三方囲まれる安定感のある「個室の4床室」を使い分け、いずれも限られた病棟面積のなかで、個室とあわせて患者の状態に応じた病室環境を選定できるようにした。

### ー まちの中にある、

#### 身近で開かれた精神科病院を目指して

近年、より身近になりつつある精神科医療であるが、本院のように地域生活の中でまず患者を受けとめる役割を担っていく病院は増えつつある。それを支える建築は、まちの中に自然に溶け込み、地域社会と患者ともに寄り添う場所となることを目指した。

(鈴木慶治、小島千知、伊藤華子、高瀬 敦 / 共同建築設計事務所)



インテリアに越前和紙を使用し落ち着いた雰囲気診察待合



ユニット詳細



2階平面図



1階平面図 縮尺1/1,000



見守りがしやすいユニット内水廻り



落ち着いた居場所の1つとなる談話コーナー



個室の4床室 障子付き窓を持ち、袖壁を出すことにより三方を囲まれた安定感のある病室



個室型4床室 各ベッドを建具で仕切り個室に近い空間とすることができ



まちを望む病棟食堂

### 施工計画

建設地は住宅街にあり、2つの十字路に面する特徴的な街区形状をもった場所であった。外壁面が比較的街道から近く、往来する車両や近隣にこども園があるため、施工期間の工事車両の出入り・揚重計画に特に配慮しながら安全に工事を行った。

基礎に関しては、ほとんどが地下ピットのため、施工の際、周辺水位が高く砂質系の地層であったことから、土留め・ウエルポイントを行いながら計画的に施工を進めた。

外装に関しては、2・3階の東西、北面の病室の一部が斜めに飛び出しているため納まりが難しかったが、施工図での打ち合わせを密に行い、現

場にて精度を上げていった。

病室に関しては、先行モデルルームを作成し、施主、設計者、病院関係スタッフに実際の配置・納まり等を見て意見を反映しながら施工を行うことで満足いただける仕上げになり、無事竣工を迎えることができた。

こうして、ここに寄り添う医療機関として歴史を重ねてきた建物の建設に携われたことを光栄に思う。

(下川成一／田中建設)



基礎工事



躯体工事



完成全景

(写真提供：田中建設)



下川 成一……しもかわ なりかず  
1973年福井県生まれ。2020年田中建設入社。現在、同社建築部所長

### 医療法人三精会 こころの森病院 データ

所在地 福井県福井市大島町柳301

主要用途 精神科病院

建築主 医療法人 三精会

設計・監理 共同建築設計事務所

担当／総括：鈴木慶治 建築：小島千知、伊藤華子、高瀬 敦



鈴木 慶治……すずぎ けいじ  
1981年明治大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役



小島 千知……こじま ちはる  
1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、2004年共同建築設計事務所入社。現在、同社第2設計部 部長



伊藤 華子……いとう はなこ  
1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社第3設計部 室長



高瀬 敦……たかせ あつし  
2018年東京電機大学大学院未来科学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社第2設計部

構造 走坂建築設計事務所 担当／坪田秋月

設備 アイ設計 担当／高橋 武、西原功大

施工 田中建設

担当／下川成一、長濱洋一、東 悠人、能美魁人

設計期間 2020年5月～2021年12月

工事期間 2021年12月～2023年3月

#### 【建築概要】

敷地面積 2,206.95㎡

建築面積 1,442.85㎡

延床面積 3,827.96㎡

建ぺい率 65.37% (許容70%)

容積率 173.45% (許容200%)

構造規模 RC造 地上3階

最高高さ 15.497m

軒高 12.247m

駐車台数 7台

地域地区 準工業地域

#### 【病棟概要】

診療科目 全1科(精神科)

病床数 全96床(1床20室、3床4室、4床16室)

1床当延床面積 39.7㎡

病棟基準階面積 1,326.0㎡(3階)

1床当病棟基準階面積 22.1㎡

#### 【設備概要】

電気設備 受電方式／3φ3W6.6KV 屋外キュービクル型受変電設備 変圧器容量／650kVA 予備電源／ディーゼル式非常用発電機105kVA

空調設備 空調方式／外調機+ 電気式ビル用マルチ方式(EHP)空調機

衛生設備 給水／上水+井水処理1系統 受水槽+加圧給水ポンプ方式 給湯／エコ給湯(電気式貯湯型温水器) セントラル給湯方式 排水／汚水・雑排水建物内合流式・下水道本管へ放流

防災設備 消火／スプリンクラー設備、消火器 排煙／排煙窓による自然排煙 その他／自動火災報知器設備、非常警報設備(放送設備)、誘導灯設備、非常照明設備

昇降機 環台用×2基

特殊設備 ナースコール設備、監視カメラ設備、医療ガス設備

撮影／増田寿夫写真事務所

\*撮影／共同建築設計事務所



まちの夕景に溶け込む外観

#### 協力会社

電気設備工事	上野電機
空調・給排水衛生設備工事	斉藤設備機工
生コンクリート納入	三谷商事
軽量鋼製建具工事	山金工業
アルミ製建具	日海不二サッシ
床材	田島ルーフィング
サイン工事	マルキヤ宣伝社



## 医療法人三精会 こころの森病院

施 工

生活はかたちにして伝えたい  
**TANAKA** 田中建設株式会社

福井県越前市本保町21-10

TEL.0778-22-5255

電気設備工事

**U** 上野電機株式会社

福井県福井市乾徳3-9-1

TEL.0776-22-3326

空調・給排水衛生設備工事

**SAITO** 齊藤設備機工株式会社

福井県福井市順化1-14-16

TEL.0776-22-3800